

美作サイエンスフェア

美作サイエンスフェア実行委員会

活動の目的

美作サイエンスフェアが始まる2013年以前は、300名を超える参加者を集める科学体験講座は津山地域にはなかった。津山高校を中心にした高校生ボランティアの協力を得ながら、津山地域に理科教育に関わる人たちで実施にこぎ着け、今回で5回目を迎えた。津山地域の幼児、小学生、中学生に理科の体験学習の機会を提供し、理数好きの子どもを増やしていくことを目的とした活動である。学ぶことを楽しみ、科学が好きな子どもを増やしていくことを目的とした活動である。この活動を継続していくことで、津山地域に理科・科学好きを生み出す文化的土壌を醸成したい。

活動の内容及び経過

9月23日(土)に美作大学を会場に、美作サイエンスフェアを実施した。例年、美作大学の協力を得て、15程度の体験ブースを開いている。13:00から16:00の間に幼児、小学生、中学生を対象に理科・科学体験を実施し、300名を超す参加者が来場した。毎年多くの子もたちが訪れ、楽しく理科・科学体験をしている。これまで実験材料費等は参加団体がそれぞれ持ち出しでブースを用意してくださっていた。2017年度は福武教育文化振興財団より助成を受けることができ、非常に充実した体験内容にすることができた。真庭高校落合校地、勝山高校、美作高校、津山中学、津山高校の先生方が計13のブースを出してくださり、科学を楽しむ体験を提供することができた。

活動の成果・効果

参加者の中心が小学生と幼児、その保護者であるので、短期的に成果を計るのは難しい。しかし、美作サイエンスフェアに訪れた子どもたちの中には、ボランティア生徒の中心であった津山高校や津山中学校に入学し、ボランティアとして活動してくれている生徒もでてきている。シロアリの観察やウミホタルの発光実験、液体窒素を扱ってみるなど、親子ともに各ブースで楽しんでいる姿が見られ、短期的にも興味関心を高める一定の効果があったものと思われる。今年度は助成をいただけたことで、体験ブースの内容、体験に必要な物品を例年よりも増やす、来年度に向けた準備物の購入など、活動の幅を広げることもできた。また、福武教育文化振興財団から助成を受けることができたことで、東京都小金井市で行われている青少年のための科学の祭典in小金井への視察を行うことができた。東京学芸大学を会場に行われ、100を超えるブースが出展する規模の大きいもので、来年度に向けた新たなアイデアや運営面の工夫等、多くのことを得ることができた。非常に有意義な視察であ



った。助成を受けることができたことで、新たな活動の種を得ることができた。

今後の課題と問題点

体験ブースの内容を少しずつ入れ替えていき、体験できる内容を増やしていくことが必要である。新たなアイデアを得るための視察等を行っていきたいが、予算的な裏付けがないのが課題である。また、ブース出店団体や美作サイエンスフェア実行委員会で運営費や実験材料費を負担しながら会の運営を続けている。ブース出展者や美作サイエンスフェア実行委員会が運営費等を負担するには限界がある。自己負担でブースの運営を行うような状況を改善し、活動資金を得る方法を考えていく必要がある。経済規模の小さい県北地域で、企業からの協賛を得ていくのも難しいが、活動を継続するためにも資金獲得が最大の課題である。

- 代表者：國定義憲 ●所在地：津山市椿高下
- TEL：0868-22-2204
- E-MAIL：yoshinori_kunisada@pref.okayama.jp
- 設立年：2013年 ●メンバー数：30名